

## **\*\* 第6回女性医師の生き方セミナーを開催 \*\***

女性医師メンターは、女性医師の身近なところで相談に応じ、助言を行う先輩医師のことで、金沢大学附属病院では4人の医師が石川県からの委嘱を受けて活動しています。

この度、女性医師の生き方セミナーが、9月12日（土）午後2時30分から、金沢大学附属病院女性医師メンターを中心として、金沢大学附属病院、金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー、石川県女性医師支援センター、Hokuriku Women Researchers' Network（HWRN）の主催により、金沢大学附属病院宝ホールを会場として開催されました。

女性医師の生き方セミナーは、多くの悩みを抱えながら日々の診療に従事している女性医師やこれからの世代を担う女子医学生、また、その女性たちを支える方々を対象に、医師としての生き方を考える機会の提供を目的として開催しているもので、第6回となる今回、石川県内医療機関を中心に、勤務医、医学生やその親、また、学内から男女共同参画キャリアデザインラボラトリー長など、男性10名を含む約50名の医療関係者等が参加しました。

谷内江金沢大学附属病院副院長及び近藤邦夫石川県医師会会長の開会挨拶の後、第1部の講演会では、森下金沢大学附属病院女性医師メンターを座長として、国際医療福祉大学病院 桃井真里子病院長（兼国際医療福祉大学副学長）から「選択する自由」と題してご講演をいただきました。

日本の女性を取り巻く現状（働く女性にとって不要な社会通念）から生じる様々な困難に対し、笑い飛ばすセンスを磨いてほしいこと、仕事・育児・家事・勉強・余暇の中で最も必要なものを、やわらかい思考で自由に選択すれば良いこと、また、一方で、プロフェッショナルな医師の職を選択した責務を常に考え、覚悟を持ち続けてほしいことなど、とても刺激的で元気をいただけた講演内容でした。

また、第2部の桃井先生を囲んでのディスカッションでは、小川金沢大学附属病院女性医師メンターの進行により、和やかな雰囲気の中、女性医師のキャリアアップや仕事と育児の両立、医学生に対する‘医師の責務’に係る教育の必要性、組織における働き方をどう合理的にするかなど、活発な意見交換が行われ、最後に、上田博石川県医師会副会長による閉会の挨拶をもって盛会のうちに終了しました。

参加者からは、「仕事、育児、家事など多くのことに追われる生活において、自分で選択していけば良いのだと思い、少し心が軽くなった。」、「自分が医師になった責任を自覚しようと思う。」、「利用可能性ヒューリスティックに陥らないようにするということを肝に銘じれば不満が減りそう。」、「大変勇気づけられた。」など大好評をいただきました。

挨拶する 谷内江昭宏 金沢大学附属病院副病院長



近藤邦夫 石川県医師会会長



第1部 講演する 桃井眞里子 国際医療福祉大学病院病院長



熱心に聞き入る参加者



第2部 桃井先生を囲んで和やかに意見交換する参加者



